

熊野町子どもの読書活動推進計画  
(第三次計画)

— 筆の都KUMANNOプラン —



令和 2 年 4 月  
熊野町教育委員会



## はじめに

子どもが、本に親しみ、読書することは、ことばをはじめ様々な知識や知恵を学び、感性や情緒、さらには想像力、表現力、思考力、創造力等を養い、豊かな人間性を育み、人生を豊かにしていくために欠くことができないものであり、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進していくことは極めて重要なことです。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災後、被災地の多くの子どもが不安に直面していた際、全国から寄付された本や絵本が子どもの心のよりどころとなり、生きる希望を与えています。

しかしながら、今日、テレビ、ビデオ、テレビゲーム、インターネットや携帯電話等の情報メディアの発達・普及や、子どもの生活環境の変化、さらには、乳幼児期からの本に親しみ楽しむ機会や時間の減少により、「読書離れ」「活字離れ」が指摘されています。

今、子どもがことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、多様な文化を理解して、人生をさらに豊かに生きる力を身に付けていく上で、「いつでも、どこでも、だれでもが読書できる環境」を整え、発達段階に応じた子どもの主体的な読書活動を支えるための条件整備を行うことが求められています。

子どもの読書活動の推進に関する法律において、「市町村は子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画」を基本とするとともに、市町村における子ども読書活動の推進の状況等を踏まえ、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならないとされています。

熊野町では、平成21年2月に「熊野町子ども読書活動推進計画―筆の都KUMANOプラン―」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

また、平成24年度からは家庭において子どもが家族と同じ本を読み、その感想等を共有する家庭読書推進活動「熊野町くまどく事業」を実施し、家庭読書活動の一層の推進に取り組んでいます。

熊野町の子ども読書活動のさらなる発展のため、第5次熊野町総合計画において、政策目標である「子どもが健やかにたくましく育つまち」の一環として、「熊野町子ども読書活動推進計画（第二次計画）」を策定し、計画期間を平成27年度から平成31年度までの5年間としました。

第二次計画にしたがって、読書活動を推進した結果、成果や課題があきらかになりました。このことを踏まえながら、ここに新たな「熊野町子ども読書活動推進計画（第三次計画）―筆の都KUMANOプラン―」を策定しました。各関係機関や家庭・地域が連携・協力し、第三次計画の実践化を通して、本町の子どもの読書活動が一層推進されるよう取り組んでまいります。

## 教育長のメッセージ

私の友人に、古希を過ぎても未だに精力的で、文学・哲学・経済・理化学・音楽等色々なことに興味・関心を持ち、東南アジアの雑貨を扱う貿易会社を営んでいる方がいます。感心するとともに尊敬しています。彼は自分の原点は「読書」にあると言います。幼稚園・小中学校時代は色々な本を読みまくって、学校の図書室の本はほとんど読破したそうです。学校にない本は定期的に近くの本屋で買ってもらいました。彼は今でも本をよく読みます。本は知らない知識や技能を教示するとともに、自分の創造性を広げ、更なる好奇心をかき立ててくれるし、アイデアの基となっていると言います。こんな彼にまつわるおもしろいエピソードがあります。製パン工場を営んでいた父親は、教育に興味・関心があり、読書をすることの大切さを知っておられ、日頃から自分の子どもに読書を奨めていました。しかし、忙しい生活のため日頃から彼の様子はあまり見ておられません。彼が小学校高学年のある日、父親から「これを読みなさい」と一冊の本を渡されました。面白そうなので直ぐに読み始めパラパラとページをめくっていたら、それを父親が見て「お前は本気で読んでいない。だからだめなんだ！」とこっぴどく叱られた経験があるそうです。うそみたいで本当の話です。最近の脳科学で明らかになっていることですが、乳幼児期に多くの絵本や本を読んでいる人は、脳を構成する神経細胞（ニューロン）が成長し複雑に絡み合い、刺激に対する情報伝達が速いことから、短時間で読書できることが報告されています。彼は小学校高学年で既に速読ができる域に達していたと思われれます。

本町では、平成24年から家庭で親と子が同じ本を読むことを目的として「くまどく」を実施しています。この事業は、町内の幼稚園・保育園・認定こども園等、町内の小中学校を核として、町内各公民館・交流館・図書館と連携・協力しながら、町全体で行っています。事業内容は、熊野町内の0歳から中学校3年生までのすべての子どもとその家族を対象として、子どもと家族のだれかが一週間のうち2日以上、15分以上、テレビ・携帯電話等の電源を切り、漫画や雑誌、教科書以外の同じ本を読み、対象者全員に配布した「くまどくノート」に、本の名前と一緒に読んだ人を記入するものです。

数学者新井紀子先生の著書「AI VS. 教科書が読めない子どもたち」に、現在の子どもが成人になる頃には、AI（人工知能）が普及し単純労働はロボット化され現在の仕事の約半数は無くなるであろうとするオックスフォード大学の研究結果が紹介されています。さらに自身の研究で、自分の思う仕事に就くためには、コミュニケーション能力とともに、文章をきちんと読むことができる力、即ち「読解力」が非常に重要であること等を提言されています。また、子どもは教科書に書いてある内容を十分理解しないまま学習を終えている実態を指摘されています。いずれにしても、乳幼児期から読書する習慣を身につけさせることは我々大人の責務であると捉えるべきです。熊野町では、子どもも大人も大いに本を読みましょう。

令和2年4月

熊野町教育委員会教育長 林 保

# 目 次

I	基本方針	5
II	熊野町子どもの読書活動推進計画策定にあたって	7
	1 計画策定の趣旨	
	2 計画の目的	
	3 計画の対象	
	4 計画の期間及びスケジュール	
	5 計画の推進体制	
III	熊野町子どもの読書活動推進のための現状と取組	11
	1 家庭における現状と取組	
	2 学校における現状と取組	
	3 町立図書館における現状と取組	
IV	熊野町子どもの読書活動推進のための環境の整備・充実	39
	1 学校における整備・充実	
	2 町立図書館における整備・充実	

V 令和2年度熊野町読書活動全体計画 . . . . . 49

- 1 町立小中学校における令和2年度読書活動全体計画
- 2 実践例「広島県立熊野高等学校図書館リニューアル等事業」
- 3 町立図書館における令和2年度事業計画

VI 参考資料 . . . . . 63

- 1 令和元年度熊野町子どもの読書活動推進計画アンケート
- 2 用語解説
- 3 参考資料・参考文献

# I 基本方針



# 「熊野町子どもの読書活動推進計画 (第三次)」推進のための主な施策

## 子どもの読書習慣の形成

### 本に親しむ

#### 目的に 応じて読む

学習指導要領を踏まえた読書活動の推進

生涯を通じた読書活動の推進

読者の読書活動への支援

地域における読書への関心を高める取組の実施

幼稚園・保育所・認定こども園等における  
本に親しませる取組の推進

学校における児童生徒の実践に際した  
本に親しませる取組の推進

学校における児童生徒の読書機会の確保

#### 本から学び 自らの考えを 深める

本から学ぶ読書活動の展開を図る

本を読んで自らの考えを深め、表現する  
取組の推進

### 「くまどく」 の推進

### 家庭、地域、学校等における取組 環境整備

地域ボランティア等、多様な人々の参画  
図書館職員・司書教諭・学校図書館司書の  
スキルアップに向けた研修の実施等

- ・町立図書館の環境整備の実施
- ・学校図書館の環境整備の実施
- ・学校と町立図書館等との連携

人的整備の充実

物的整備の充実



## Ⅱ 熊野町子どもの読書活動推進 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

---

子どもにとっての読書活動は、本から学び自らの考えを深め、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力、生涯にわたって主体的に学び続ける力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

国は、平成30年4月に「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、その体制や方策を図っています。

また、広島県では、乳幼児期から大学・社会人までを見据え、家庭、地域、幼稚園・保育園・認定こども園等、学校、更には経済界や産業界も含めた「オール広島県」で、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」を育成していくことを進めています。

これらのことから、発達段階に応じた取組や読書環境の整備を推進していくことは極めて重要です。令和元年11月に「広島県子供の読書活動推進計画（第四次）」を策定しています。

本町においても、平成21年2月に「熊野町子どもの読書活動推進計画―筆の都KUMANO プラン―」を策定し、平成27年3月に第二次計画を策定しました。

国や広島県の基本的方針を見据え、本町における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、本町における子どもの読書活動の推進に関する施策について見直し、総合的、計画的に進めるための基本的な計画として、「熊野町子どもの読書活動推進計画（第三次計画）―筆の都KUMANO プラン―」を策定するものです。

## 2 計画の目的

---

本計画は、子どもが本と出会い、読書の楽しさに触れながら、ことばの力や感性等を身に付け、豊かに生きていくために、すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことを目的としています。

本町では、この目的を達成するため、令和元年度に町内の幼稚園・保育園・認定こども園等に在籍する乳幼児の保護者と小中学校に在籍する児童・生徒及び保護者を対象に、「読書に関するアンケート（以下「アンケート」という）」を実施し、状況把握と国・県の計画を踏まえ計画を策定しました。

## 3 計画の対象

---

本計画の対象は、子どもと保護者を対象とします。

## 4 計画の期間及びスケジュール

本計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画とします。なお、本計画は、必要に応じて見直しを行うものとします。

【計画の期間と上位計画（文部科学省及び広島県、熊野町）】

年度		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 R1	R2	R3	R4	R5	R6
文 部 科 学 省	子供の読書活動の推進に関する基本的な計画	第2次基本計画 (H20～H24)			第3次基本計画 (H25～H29)				第4次基本計画 (H30年～5年計画)							
	広島県子供の読書活動推進計画	第2次計画 (H21～H25)			第3次計画 (H26～H30)				第4次計画 (R元年～5年計画)							
熊 野 町	第5次熊野町総合計画	第5次熊野町総合計画 (H23～10年計画)														
	熊野町子ども読書活動推進計画	第1次計画 (H21～H26)				第2次計画 (H27～H31)				第3次計画 (R2年～5年計画)						

## 5 計画の推進体制

### (1) 継続的な読書活動推進のための体制

本計画の進捗状況を確認し、必要な修正を加えながら総合的・継続的に推進する組織を設置します。

### (2) 関係機関等の連携・交流

子どもの読書活動推進に関わる関係機関が連携し、それぞれの特性を生かし、充実した活動ができるよう情報交流、図書資源の有効活用を進めます。

### (3) 推進の柱（第三次計画の施策体系）

子どもの読書活動推進のために、読書習慣の形成に向けた取組や、それを支える環境整備等を通して、読書活動の充実を図ります。

- ① 本に親しむ
- ② 目的に応じて読む
- ③ 本から学び自らの考えを深める
- ④ 環境整備

### (4) 推進のための取組

- ① 家庭における現状と取組
- ② 学校における現状と取組
- ③ 町立図書館における現状と取組

### Ⅲ 熊野町子ども読書活動推進 のための現状と取組

# 1 家庭における現状と取組

子どもの自主的な読書活動を推進するために、家庭、地域、学校等を通じた社会全体での取組は大変重要です。今後より一層の読書活動推進のためには、家庭、地域、学校等のそれぞれが役割を果たし、民間団体とも緊密に連携し、相互に協力を図ることが求められます。

家庭は、子どもが多く時間を過ごす場所であり、家族構成や仕事、教育に対する方針など、家庭一つをとっても様々です。この度の保護者アンケートによって、改めてそれぞれの家庭が読書に抱く考えがわかりました。

この結果をもとに、家族間コミュニケーションの深まりと「ことばの力」の向上を目的とした家庭読書推進事業「熊野町くまどく事業」(※1)について見直し、子どもの自主的な読書活動の推進を図る取組を実施するとともに、関係機関と連携し、必要な体制の整備に努めます。



## (※1) 熊野町くまどく事業

読書の推進と家族の絆づくりを目的に実施するもので、子どもと家族が1週間のうち2日以上、テレビ・携帯電話などの電源を切り、15分以上家族で同じ本を読み、専用の「くまどくノート」に記録するとともに、読んだ本の内容について家族で語り、感想を共有しあうことにより、家族間のコミュニケーションを図るというものです。

家庭は、子供の基本的な生活習慣を育む場であり、健やかな育ちの基盤となる場所です。子供の読書習慣は家庭の中などの日常生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置付けられ、継続して行われるために、家庭での読書活動推進に取り組む必要があります。

(中略)

各家庭が子供の発達段階に応じて読書活動に取り組むことができるよう、家庭・地域・学校が連携、協力し、家庭で本に触れるきっかけづくりを提供していただくことが大切です。

出典：広島県子供の読書活動推進計画（第四次）「第2章 読書習慣の形成に向けた取組 本に親しむ 家庭」



現状

令和元年度熊野町子どもの読書活動推進計画「保護者アンケート」結果より

《幼稚園・保育園・認定こども園》

【表1】読書について

①読書について		週に5日以上	週に2日～4日	週に1回	していない	—	合計
1 家で読み聞かせをしていますか。	小計	81	148	120	55	0	404
	割合	20.1%	36.3%	29.9%	13.7%	0.0%	100%
		忙しくて時間がない	どのように読み聞かせをすればいいかわからない	身近に本がない	子どもが本を読んでほしいと言わないから	その他	合計
2 1で、「していない」と回答した人に質問します。読み聞かせをしていない理由は何ですか。(※複数回答可)	小計	45	4	1	15	11	76
	割合	59.2%	8.3%	1.3%	19.7%	14.5%	100%
		思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	—	合計
3 あなたは、読み聞かせは大切だと思いますか。	小計	385	78	0	1	0	434
	割合	81.8%	18.0%	0.0%	0.2%	0.0%	100%
		保護者がすすんで読書をする	本を読んで聞かせる(読み聞かせ)	「くまどく」をする	家に本をたくさん置く	その他	合計
4 お子さんが本への関心をもてるよう、家で取組んでいますか。(※複数回答可)	小計	50	250	103	171	357	931
	割合	5.4%	26.9%	11.1%	18.4%	38.3%	100%

(参考資料：資料15 幼稚園・保育園—7、8、10、12)

- ①-1：家庭で読み聞かせをしている保護者は、「週に1回」が29.9%、「週に2日～4日」が36.3%、「週に5日以上」が20.1%で、全体の8割強となっています。
- ①-2：1で読み聞かせをしていないと回答した家庭の一番多かった理由は、「忙しくて時間がない」59.2%でした。
- ①-3：読み聞かせが大切だと考える家庭は、99.8%（「思う」：81.8%、「どちらかといえば思う」：18.0%）でした。
- ①-4：家庭での読書についての取組例としては、本とふれあう機会を提供するものが多く、読み聞かせは26.9%でした。



ブックスタート「あかちゃん広場」の様子  
(子育て支援課主催)



親子で読み聞かせ

【表2】「くまどく」について

②「くまどく」について		週に5日以上	週に2日～4日	週に1回	していない	その他	合計
1 「くまどく」を1週間に何日していますか。	小計	62	131	141	87	13	434
	割合	14.3%	30.2%	32.5%	20.0%	3.0%	100%
2 「くまどく」をこれからもずっと続けたいですか。	小計	177	162	43	19	20	421
	割合	42.0%	38.5%	10.2%	4.5%	4.8%	100%
3 2で「どちらかといえば続けたくない」「続けたくない」と答えた人に質問します。続けたくない理由は何ですか。 〔※複数回答可〕	小計	28	10	44	8	0	90
	割合	31.1%	11.1%	48.9%	8.9%	0.0%	100%

(参考資料：資料17 幼稚園・保育園-21、24、25)

- ②-1：「週に1回」32.5%、「週に2日～4日」30.2%、「週に5日以上」14.3%と約8割が週に1回以上行っているという結果でした。
- ②-2：「くまどく」を「続けたい」42.0%、「どちらかといえば続けたい」38.5%と回答した保護者は80.5%で、約8割の家庭が続けたいとの回答でした。
- ②-3：2で、「どちらかといえば続けたくない」、「続けたくない」と回答した家庭の主な理由は、『くまどくノート』の記入が大変だから48.9%、「家族とあまり本を読む時間がないから」31.1%でした。



町内幼稚園・保育園・認定こども園に青少年育成くまの町民会議から絵本の贈呈が行われる

### 〔考察〕

読み聞かせは大事だと考える家庭は99.8%でした。読書の重要性は幼稚園・保育園・認定こども園の取組により、保護者に浸透しています。

読み聞かせを実践できていない家庭の理由は、忙しくて時間がないというものでした。「くまどくノート」についても、幼稚園・保育園・認定こども園児の保護者は、読み聞かせをした上でノートの記入もしなければならず、題名だけでなく内容を要約し記入するようになっている（作者と内容の記入は任意である）ことが、記録の継続が難しい、ノートを提出しづらい要因の一つかと考えます。

今後も「くまどく」を進めるにあたり、各家庭環境により読み聞かせ等に割ける時間は異なるため、保護者が困難に感じる部分に配慮し、策を講じる必要があります。

《小学校》

【表3】読書について

①読書について		週に5日以上	週に2日～4日	週に1回	していない	—	合計
1 家で読み聞かせをしていますか。	小計	29	155	196	538	0	918
	割合	3.2%	16.9%	21.4%	58.5%	0.0%	100%
		忙しくて時間がない	どのように読み聞かせをすればいいかわからない	身近に本がない	子どもが本を読んでほしいと言わないから	その他	合計
2 1で、「していない」と回答した人に質問します。読み聞かせをしていない理由は何ですか。(※複数回答可)	小計	284	11	21	189	110	615
	割合	46.2%	1.8%	3.4%	30.7%	17.9%	100%
		思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	—	合計
3 あなたは、読み聞かせは大切だと思いますか。	小計	515	317	36	2	0	870
	割合	59.0%	35.7%	4.1%	2.3%	0.0%	100%
		保護者がすすんで読書をする	本を読んで聞かせる(読み聞かせ)	「くまどく」をする	家に本をたくさん置く	その他	合計
4 お子さんが本への関心をもちよう、家庭で取組んでいますか。(※複数回答可)	小計	153	211	434	274	253	1325
	割合	11.5%	15.9%	32.8%	20.7%	18.1%	100%

(参考資料：資料12 小学校-7、8、10、12)

- ③-1：約6割は読み聞かせをしていないという回答でした。残る4割の内訳は「週に1回」21.4%、「週に2日～4日」16.9%、「週に5日以上」3.2%でした。
- ③-2：読み聞かせをしていないと回答した家庭の主な理由は、「忙しくて時間がない」46.2%、「子どもが本を読んでほしいと言わないから」30.7%でした。
- ③-3：読み聞かせが大切だと考える家庭は、9割以上でした。
- ③-4：家庭における主な取組は、「『くまどく』をする」32.8%、「家に本をたくさん置く」20.7%、「本を読んで聞かせる」15.9%でした。



「子ども司書」による読み聞かせ(熊野第二小学校)



図書まつりの様子(熊野第三小学校)





【表4】「くまどく」について

④「くまどく」について			週に5日以上	週に2日～4日	週に1回	していない	その他	合計
1	「くまどく」を1週間に何日していますか。	小計	32	370	439	185	0	1036
		割合	3.1%	35.7%	42.4%	18.8%	0.0%	100%
			続けたい	どちらかといえば続けたい	どちらかといえば続けたくない	続けたくない	その他	合計
2	「くまどく」をこれからもずっと続けたいですか。	小計	208	434	297	133	47	1057
		割合	19.5%	41.1%	22.4%	12.6%	4.4%	100%
			家族とあまり本を読む時間がないから	本が好きではないから	「くまどくノート」の記入が大変だから	その他	—	合計
3	2で「どちらかといえば続けたくない」「続けたくない」と答えた人に質問します。続けたくない理由は何ですか。(※複数回答可)	小計	170	159	228	85	16	658
		割合	25.8%	24.2%	34.7%	12.9%	2.4%	100%

(参考資料：資料14 小学校-21、24、25)

- ④-1：「週に1回」42.4%、「週に2日～4日」35.7%、「週に5日以上」3.1%と約8割が「くまどく」を家庭で実践しており、18.8%はしていないという回答でした。
- ④-2：「くまどく」を「続けたい」19.5%、「どちらかといえば続けたい」41.1%という回答をあわせて約6割で、幼稚園・保育園・認定こども園と比べると2割減という結果でした。
- ④-3：「くまどく」を「続けたくない」「どちらかといえば続けたくない」の主な理由は、「『くまどくノート』の記入が大変だから」34.7%、「家族とあまり本を読む時間がないから」25.8%、「本が好きではないから」24.2%でした。

## 〔考察〕

読書力や文章力、語彙力など、読書をすることで得られるものの重要性は、幼稚園・保育園・認定こども園と同じく保護者に浸透しています。

しかし、忙しく時間がとれないことや、ノートの記入が大変であることから「くまどく」を続けたくないという声も多く、読書の重要性を理解した保護者が多い分、負担にならない方法で実施して欲しいという意見がみられました。また、「くまどく」を宿題として読書を強制することで、子どもが読書を敬遠したり、嫌いになってしまうことを危惧する声が多くみられました。

幼稚園・保育園・認定こども園児に比べて、小学校3・4年生くらいになると、読書やノートの記入を子ども自身で取り組めるようになるため、高学年になるにつれ「くまどく」自体が、“親子で取り組む読書活動”というスタンスから、“子ども自身で取り組むべきもの”“保護者は見守るもの”という風に、子どもの成長と相まって変化しています。



休憩時間の図書室の様子（熊野第一小学校）

## 《中学校》

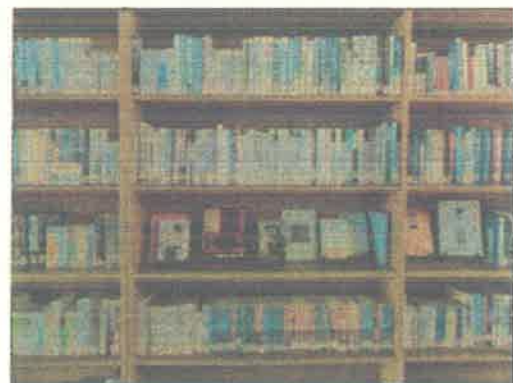
## 【図表5】読書について

※中学生の保護者には家庭での読み聞かせに関するアンケートを実施していない

⑤読書について			好き	どちらかという好き	どちらかという好きではない	好きではない	－	合計
1	あなたは(保護者・記入者)は、本を読むことは好きですか。	小計	132	107	149	45	0	513
		割合	25.7%	36.5%	29.0%	8.8%	0.0%	100%
			1冊	2冊～5冊	6冊～9冊	10冊以上	読まない	合計
2	あなたは、1か月に、どれくらい本を読みますか。	小計	133	120	7	10	245	515
		割合	25.8%	23.3%	1.4%	1.9%	47.6%	100%
			読書は好きではないから	読みたい本がないから	仕事・家事・趣味等で時間がないから	テレビ、スマホやSNSの方が楽しいから	その他	合計
3	2で「読まない」と答えた人に質問します。本を読まない理由は何ですか。	小計	37	21	171	19	5	253
		割合	14.8%	8.3%	67.6%	7.5%	2.0%	100%
			思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない	－	合計
4	あなたは、本を読むことは大切だと思いますか。	小計	344	160	8	3	0	513
		割合	67.1%	31.2%	1.2%	0.6%	0.0%	100%
			保護者がすすんで読書をする	本を読んで聞かせる(読み聞かせ)	「くまどく」をする	家に本をたくさん置く	その他	合計
5	お子さんが本への関心をもてるよう、家庭で取組をしていますか。(※複数回答可)	小計	76	23	33	96	89	327
		割合	23.2%	7.0%	10.1%	29.4%	30.3%	100%

(参考資料：資料12 中学校-1、2、4、5、12)

- ⑤-1：保護者自身が読書が好きかどうかについて、「好き」25.7%、「どちらかという好き」36.5%という回答があわせて約6割程度でした。
- ⑤-2：1か月にどれくらい本を読むかについて、「読まない」という保護者が47.6%、「1冊～5冊読む」という保護者が49.1%、「6冊以上読む」という保護者が3.3%で、1か月に1冊は本を読んでいる保護者が半数以上という結果でした。
- ⑤-3：2で本を「読まない」と回答した保護者について、主な理由は、「仕事・家事・趣味等で時間がないから」67.6%でした。
- ⑤-4：読書について保護者自身は、大切だと「思う」67.1%、「どちらかというと思う」31.2%と、あわせて98.3%が本を読むことは大切だと捉えています。
- ⑤-5：家庭での取組については、読み聞かせは7.0%とほとんどなく、「保護者がすすんで読書をする」(お手本を見せる)や「家に本をたくさん置く」などの、子どもの自主性(自分で選ぶ、自分で読む)を育むために本とふれあう環境づくりが主だった理由です(82.9%)。



図書室の様子(熊野東中)

【図表6】「くまどく」について

⑥「くまどく」について		週に5日以上	週に2日～4日	週に1回	していない	その他	合計
1	「くまどく」を1週間に何日していますか。	小計	4	40	105	294	443
		割合	0.9%	9.3%	23.7%	66.7%	0.5%
		続けたい	どちらかといえば続けたい	どちらかといえば続けたくない	続けたくない	その他	合計
2	「くまどく」をこれからもずっと続けたいですか。	小計	55	141	118	97	411
		割合	13.4%	34.3%	28.7%	23.6%	0.5%
		家族とあまり本を読む時間がないから	本が好きではないから	「くまどくノート」の記入が大変だから	その他	—	合計
3	2で「どちらかといえば続けたくない」「続けたくない」と答えた人に質問します。続けたくない理由は何ですか。 (※複数回答可)	小計	73	85	102	80	340
		割合	19.0%	22.1%	26.6%	20.8%	11.5%

(参考資料：資料14 中学校-21、24、25)

- ⑥-1：「くまどく」をしていない家庭は60.7%で、小学校の18.8%から急激に増える結果となりました。
- ⑥-2：「くまどく」を「続けたい」または「どちらかといえば続けたい」と回答した家庭は41.3%、「続けたくない」または「どちらかといえば続けたくない」と回答した家庭は45.2%と、ほぼ差がありません。
- ⑥-3：『くまどくノート』の記入が大変だから26.6%が続けたくない主な理由でした。

〔考察〕

読書の大切さについて、保護者の理解は十分に得られていますが、その一方で、読書は子ども自身に取り組めば良い（保護者と取り組まなくても良い）という考えの保護者が増えています。中学生の保護者は子どもに対し、小学生の保護者より一層、子どもの自主性を求めている傾向にあります。これらのことから、「くまどく」事業が目的とする、読書を“親子のコミュニケーションツール”の一つとして扱う在り方は、中学生の保護者は求めている、必要としていないことがわかります。

～幼稚園・保育園・認定こども園から中学校までのアンケート結果から見た現状～

- ・読書の重要性は、幼稚園・保育園・認定こども園から中学校まで、総じて十分に理解を得られていることがわかります。
- ・各年代の保護者が読書の重要性について十分に理解している反面、「くまどく」や読書に関するアンケートの肯定的な数値は高くありませんでした。「くまどく」事業を続けて欲しいという声がある中で、外的要因（「くまどくノート」の記入時間が取れない・家事や仕事で忙しい・読書の強制感など）によって、数値結果につながらないものの対策を講じる必要があります。
- ・「くまどく」事業の大きな目的として、家庭読書による家族間コミュニケーションの深まりと「ことばの力」の向上を掲げてきました。しかし、そういった考えと、各年代の保護者の思いとの間にギャップがあるため、そのギャップをどのようにして埋めるかが重要となります。



## 取組

## (1) 家庭読書推進事業「くまどく」の推進

## ① 各年代の「くまどく」の目的を明確化

熊野町では、平成24年度から家庭での読書による、家族間コミュニケーションの深まりと「ことばの力」の向上を目的とした「くまどく」事業に取り組んできました。

しかし、この度のアンケート結果から、各年代の保護者が「くまどく」に求めている要素がそれぞれ異なるということがわかりました。就学前の保護者アンケートと中学校の保護者アンケートを比較してみても、読書（読み聞かせ）や「くまどく」を親子のコミュニケーションツールとして捉えているかどうかには差があり、中学生の保護者はこのような在り方は、“もはや求めていない”“必要としていない”ことがわかりました。

今後は、「くまどく」事業の大きな目的と、各年代やそれぞれの目的を明確化したものにより、必要事項を取捨選択していくことが重要です。そのため、次の年代別目的表に則って「くまどく」事業に取り組めます。

## 【年代別目的表】

<b>【幼稚園・保育園・認定こども園等、未就園児】（出逢い）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の発達を促し、想像力を養う。</li> <li>・読み聞かせによって本に興味を持たせる。</li> </ul>
<b>【小学生（低学年）】（ふれあい）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせだけでなく、児童による自主的な読書から語彙力の増加を狙う。</li> <li>・言葉ひとつひとつから、具体的な情景を思い描けるイメージ力を養う。</li> </ul>
<b>【小学生（中学年）】（向かい合い）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読み切る力を養う。</li> <li>・児童が自分の持つ考え方と比較をしながら本を読む力を育む。</li> </ul>
<b>【小学生（高学年）】（当てはめる）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が本を自分で選択し、本が持つ良さについて理解する力を育む。</li> </ul>
<b>【中学生】（役立てる）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の将来に読書を活かし、役立てようという考えを育む。</li> </ul>

② 引き続き、読書及び「くまどく」事業の推進

アンケート結果により、読書の重要性は保護者間で十分に理解を得られているものと考えられます。幼稚園・保育園・認定こども園から小学校・中学校までが一貫して、読書の重要性を説いてきた結果です。引き続き関係機関と連携し、読書に関する理解をより深めてもらえるよう努めます。

そして、「くまどく」について“読書を強制されるもの”というようなマイナスイメージを抱く保護者は少なくありませんでした。記録方法の見直しや啓発カレンダーの作成、「くまどくフォーラム」など催しの実施により、「くまどく」の目的を理解してもらえるよう取り組みます。



くまどく啓発カレンダー（表紙）



くまどくフォーラムの様子

③ 「くまどく」の記録方法についての見直し

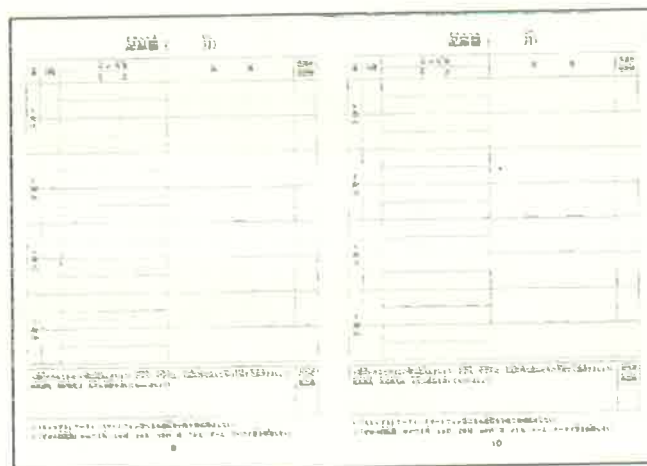
現在、「くまどくノート」は、乳幼児から中学生までが共通して使用できるノートとなっています。記録方法は年代によって異なります（任意記入箇所がある、チェックの方法が異なるなど）が、記録する記入枠の大きさは共通しています。

しかし、子どもの成長によって各年代の目的や読書に求められるものが異なるため、記入枠の大きさや記録する内容を統一した現在の様式では、記入に時間が取れないなどの問題が生じ、「くまどくノート」の普及に影響を及ぼしています。

「くまどくノート」の在り方について今一度見直し、各年代の読書の目的に沿った記録方法に変更します。



くまどくノート



くまどくノート 記録用ページ

子供の読書に関する発達段階ごとの特徴について、平成30年3月に出された「子供の読書活動推進に関する有識者会議論点まとめ」では、次のように述べられています。

① 幼稚園、保育所等の時期（おおむね6歳頃まで）

乳幼児期には、周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになる。さらに様々な体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

② 小学生の時期（おおむね6歳から12歳まで）

低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる。

中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子供とそうでない子供の違いが現れ始める。読み通すことができる子供は、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになる。

高学年では、本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする者が出てくる場合がある。

③ 中学生の時期（おおむね12歳から15歳まで）

多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになる。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになる。

④ 高校生の時期（おおむね15歳から18歳まで）

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになる。

（中略）

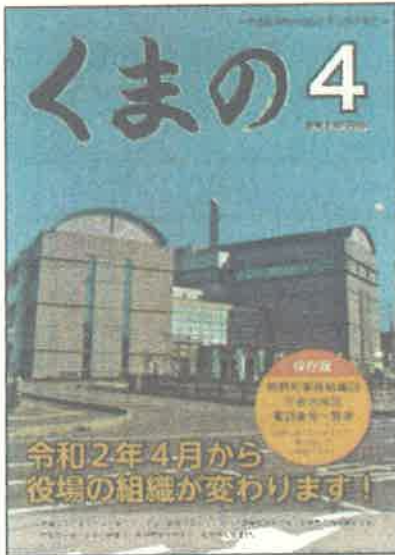
生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するためには、上記のような発達段階ごとの特徴を踏まえつつ、乳幼児、児童、生徒の一人一人の発達や読書経験に留意し、家庭、地域、幼稚園・保育所・認定こども園等、学校において、切れ目のない取組が進められることが重要です。

出典：広島県子供の読書活動推進計画（第四次）「コラム① 発達段階に応じた取組みについて」



(2) 「ストップ9 (ナイン)」(※1) 「ゼロの日運動」(※2) の推進

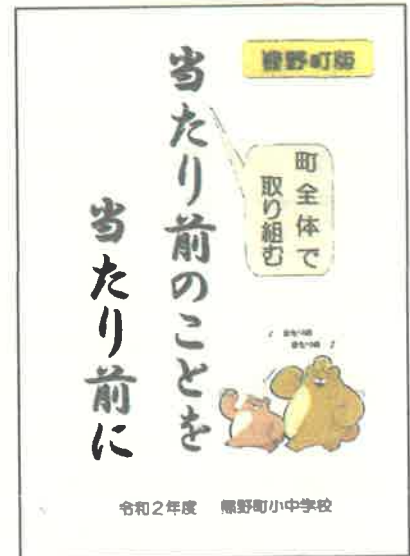
現在、熊野町広報紙や「くまどく啓発カレンダー」への掲載や各小中学校で作成した冊子「当たり前前を当たり前」での啓発を行っています。「ストップ9」「ゼロの日運動」は、家族間のコミュニケーションや子ども自身の学習時間確保のための取組です。引き続きこれらの活動を推進します。



熊野町広報紙「広報くまの」



くまどく啓発カレンダー



熊野町小中学校 作成冊子

(※1) ストップ9 (ナイン)

夜9時以降のインターネットやスマートフォン・LINE等の使用をしないようにし、家族との団らんや学習時間の確保に努め、通信機器等によるトラブルを防止するための取組です。

(※2) 「ゼロの日運動」

熊野町では、毎月0 (ゼロ) のつく10日・20日・30日は、「ゼロの日運動」を推進しています。子どもの健康の保持増進、生活リズムの確立、家庭学習の充実、家庭でのよりよいコミュニケーション等のために、ノーテレビ、ノーゲーム、ノー携帯の日として、家庭でも意識して取組を進めています。



## 2 学校における現状と取組

### (1) 学校教育法と新学習指導要領

子どもの読書習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。学校教育法（昭和22年法律第26号・令和元年5月改正）において、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」（第21条第5号）と規定されています。

また、新学習指導要領（平成30年3月）においても、言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、言語能力を充実させることや学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の自主的、自発的な読書活動を充実することが規定されています。

学校は児童・生徒が本に親しむ読書習慣を形成するため、児童・生徒の実態に応じた本に親しませる取組の推進や読書機会の確保等をおこなっていくことが必要です。

### (2) 学校図書館の運営に関わる教職員の役割

学校図書館法（昭和28年法律第185号・平成27年6月改正）において、「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない（第5条第1号）」、「学校には、司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員を置くように努めなければならない（第5条第6号）」と規定されています。

校長	学校図書館の館長としての役割を担う。校長のリーダーシップの下、計画的・組織的に学校図書館の運営がなされる必要がある。
司書教諭	学校図書館資料の選択・収集・提供のほか、学校図書館を活用した教育活動の企画の実施、教育課程の編成に関する他教員への助言等、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う。
学校司書	専ら学校図書館の職務に従事する職員である。司書教諭と連携しながら、多様な読書活動を企画・実施したり、学校図書館サービスの改善・充実を図ったりしていく役割を担う。

参考：「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」「学校図書館ガイドライン」

### (3) 学校図書館の役割と評価

文部科学省「学校図書館ガイドライン」（平成28年11月）では、これからの学校図書館は、主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての役割を期待されています。例えば、児童・生徒がグループ別の調べ学習等において、課題の発見・解決に向けて必要な資料や情報の活用を通じた学習活動等を行うことができるよう、学校図書館の施設を整備・改善していくことが望ましいと示しています。

また、コミュニティ・スクールにおいては、学校図書館の評価に当たって学校運営協議会を活用するなど保護者や地域の方の視点を取り入れていき、その評価結果を踏まえて改善していくことが望ましいと示しています。



## 1 児童・生徒

## 現状

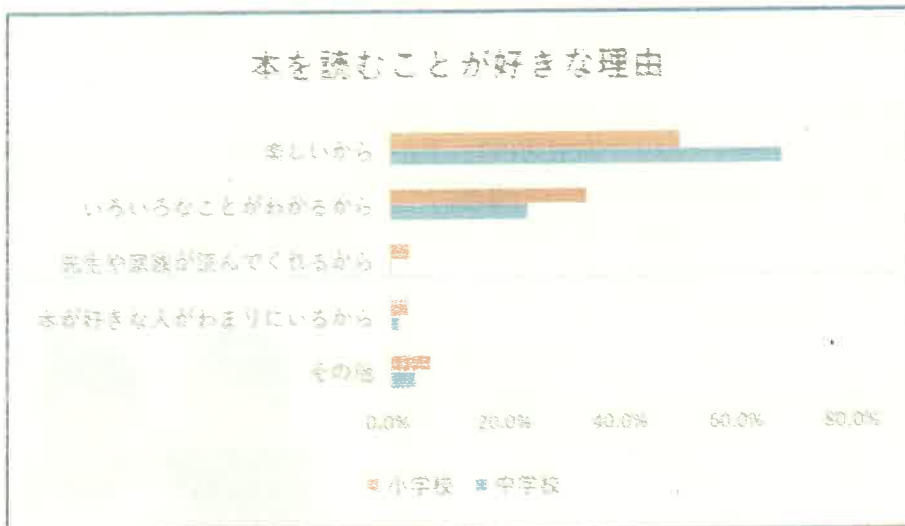
令和元年度熊野町子どもの読書活動推進計画「児童・生徒アンケート」結果より

【表1】本に親しむ

①読書について		学校	好き	どちらかという と好き	どちらかという 好きではない	好きではない		合計
1	あなたは、本を読むことは好きですか。	小学校	52.1%	28.7%	12.2%	7.0%		1,218
		中学校	36.6%	32.8%	20.6%	9.9%		606
		全体	46.9%	30.1%	15.0%	7.9%		1,824
		学校	楽しいから	いろいろなことが わかるから	先生や家族が読 んでくれるから	本が好きな人が まわりにいるから	その他	合計
2	「好き」「どちらかという と好き」と答えた人は、ど うして本が好きなのか。	小学校	50.5%	34.8%	3.9%	3.4%	7.3%	1,015
		中学校	68.1%	24.2%	0.7%	2.1%	4.9%	428
		全体	55.7%	31.6%	3.0%	3.1%	6.6%	1,441
		学校	楽しくないか ら	読みたい本が ないから	文字を読むのが 大変だから	テレビやインター ネットの利用が 多いから	その他	合計
3	「どちらかという と好きではない」「好き ではない」と答えた人は、 どうして本が好きでは ないのですか。	小学校	10.5%	23.0%	33.1%	30.7%	2.7%	257
		中学校	19.4%	22.9%	26.4%	27.4%	4.0%	201
		全体	14.4%	22.9%	30.1%	29.3%	3.3%	458

参考資料：資料8 小学校-1、2、3・中学校-1、2、3

- ①-1：読書について、小学生は80.8%、中学生は69.4%が「好き」「どちらかという  
と好き」と回答しています。
- ①-2：「楽しい」「いろいろなことがわかる」の回答が小学生は85.3%、中学生は92.3%  
でした。
- ①-3：「文字を読むのが大変」「テレビやインターネットの利用」の回答が小学生は63.8%、  
中学生は53.8%でした。



本を読むことが「好き」「どちらかという  
と好き」と答えた割合は、小学生の方が高いです。

左図では、その理由として「楽しいから」と答えた割合は、中学生の方が高いことがわかります。



【表2】不読率について

②不読率について		学校	1冊	2冊～5冊	6冊～9冊	10冊以上	読まない		合計
1	1か月に、どれくらい本を読みますか。	小学校	8.0%	33.9%	26.1%	28.1%	3.8%		1,205
		中学校	26.5%	45.3%	7.3%	5.3%	13.6%		589
		全体	14.8%	37.6%	20.0%	20.8%	7.0%		1,794
2	「読まない」と答えた人は、どうしてですか。	学校	本が好きでないから	読みたい本がないから	テレビやゲームで、時間が経つから	勉強やクラブ活動などで忙しいから	友達と遊ぶから	その他	合計
		小学校	17.5%	12.7%	25.4%	27.0%	14.3%	3.2%	63
		中学校	40.4%	22.3%	10.6%	14.9%	5.3%	6.4%	94
		全体	31.2%	18.5%	16.6%	19.7%	8.9%	5.1%	157

参考資料：資料8 小学校-4、5・中学校-4、5

②-1：小学生は複数冊読む回答が88.2%に対し、中学生は57.9%と大きな差が見られ、クラブ活動や受験勉強等で多忙になるなどの要因が考えられます。また、1冊も読まないという回答についても、小学生の3.8%に比べ、中学生は13.6%とやや高いです。

②-2：小学生では、「テレビやゲーム」「勉強やクラブ活動」「友達と遊ぶ」など、読書の優先度が低い回答が69.9%であり、中学生では、「本が好きではない」「読みたい本がない」など、読書に関心がない回答が62.7%を占めています。

【表3】読書の大切さについて

③読書の大切さについて		学校	思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない	合計
1	本を読むことは大切だと思いますか。	小学校	70.8%	20.7%	5.6%	3.0%	1,346
		中学校	49.8%	34.8%	10.6%	4.8%	578
		全体	64.5%	24.9%	7.1%	3.5%	1,924

参考資料：資料8 小学校-9・中学校-9

③：「大切だと思う」「どちらかという大切だと思う」と回答した小学生が91.5%、中学生が84.6%と本を読むことの大切さについて認識しています。



課題図書の展示  
(熊野第二小学校)



「図書館教育ニュース」の展示  
(熊野東中学校)



「部活動」図書の展示  
(熊野中学校)

## 〔考察〕

読書が好きな人の割合、1か月に読む冊数の割合、不読者の割合、読書の大切さの割合において、学校段階が進むにつれて、読書離れの傾向がみられます。

また、小学生は読書が好きでない理由として「文字を読むことの大変さ」と答えた人の割合が高いことから、読み聞かせの機会の提供などをとおして、無理なく、読書の楽しみを徐々に感じていけるように導いていくことが大切です。

中学生は本を読まない理由として、本を読む時間がないという理由よりも、「本が好きではないから」という理由をあげた人の割合が多く、中学生の興味・関心やニーズを把握すること、本の魅力や読書の楽しみを伝えていくことが必要です。

また、本アンケートにおいて、本を読むことが好きな人の理由として、「楽しいから」と答えた人が、小学生より中学生の方が多く、幼い頃から読書に親しみ読書の楽しさを知った子どもは、中学生になっても本を読むことが好き、本を読むことが「楽しい」と感じることができると推察できます。

そのためにも、家庭、地域、学校が連携し、子どもが小さい頃から本に親しむ機会を提供し、読書の楽しみを知り、その気持ちを継続できるよう、子どもの読書活動を支援できる体制の構築が必要だと考えます。



休憩時間の図書室  
(熊野第一小学校)



「子ども司書」による児童への読み聞かせ  
(熊野第四小学校)



季節の本の紹介  
(熊野第三小学校)



3年生のおすすめの本  
(熊野東中学校)



かえるシリーズの本  
(熊野第二小学校)

## 2 教職員

## 現状

令和元年度熊野町子どもの読書活動推進計画「教職員アンケート」結果より

【表1】読書センターとしての機能

①読書センターとしての機能		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	学校図書館は児童・生徒の多様な興味・関心を引く魅力的な本を備えている。	小学校	19.2%	67.9%	11.5%	0.0%	1.3%	78人
		中学校	35.1%	51.4%	8.1%	0.0%	5.4%	37人
		割合	24.3%	62.7%	10.4%	0.0%	2.6%	115人
2	学校図書館は本の紹介コーナーを設けるなど、児童・生徒が読書を楽しむ場となっている。	小学校	44.9%	51.3%	2.6%	0.0%	1.3%	78人
		中学校	70.3%	18.9%	8.1%	0.0%	2.7%	37人
		割合	53.0%	40.9%	4.4%	0.0%	1.7%	115人

参考資料：資料1 小学校-1,3・中学校-1,3

- ①-1：教職員 87.0%は、学校図書館は読書センターとしての機能を果たしていると回答しています。
- ①-2：教職員 93.9%は、児童・生徒の読みたい本を取り入れるニーズの対応や本を貸し借りしやすい環境を整えるなど読書活動の充実に向けた取組をしています。

【表2】学習センターとしての機能

②学習センターとしての機能		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	教職員は教科等の授業において、学校図書館で本や資料を利活用して調べ学習等を行っている。	小学校	15.4%	60.3%	17.9%	2.6%	3.8%	78人
		中学校	2.7%	24.3%	54.1%	18.9%	0.0%	37人
		割合	11.3%	49.7%	29.6%	7.8%	2.6%	115人
2	読書週間(旬間・月間)など、読書活動を活発にするための行事を設けている(例 ビブリオバトル、読み聞かせ、ブックトーク等)。	小学校	30.8%	51.3%	12.8%	1.3%	3.8%	78人
		中学校	43.2%	29.7%	18.9%	5.4%	2.7%	37人
		割合	34.8%	44.3%	14.8%	2.6%	3.5%	115人

参考資料：資料2 小学校-6,9・中学校-6,9

- ②-1：教職員の肯定的な回答において、小学校 75.7%、中学校 27.0%と大きな差が見られます。中学校は各教科の授業において学校図書館の利活用は十分に活用できていない状況が見られます。各教科のシラバスに位置づけるなど学校図書館を計画的に利用した授業改善の工夫が必要です。
- ②-2：教職員 79.1%は、読書活動を活発にする行事を設けていると回答しています。図書委員会が中心となって活動し、教職員は児童・生徒の読書推進に向けたサポートをしています。



【表3】情報センターとしての機能

③情報センターとしての機能		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	新聞コーナーや時事に関する雑誌や新書コーナーを設けている(例 中学校は進路情報等)。	小学校	18.2%	27.3%	27.3%	15.6%	11.7%	77人
		中学校	54.1%	27.0%	8.1%	5.4%	5.4%	37人
		割合	29.8%	27.2%	21.1%	12.3%	9.6%	115人
2	学校図書館内に児童・生徒が検索・インターネットによる情報収集に活用できる情報メディア機器が整備されている。	小学校	3.8%	16.7%	6.4%	65.4%	7.7%	78人
		中学校	5.4%	8.1%	10.8%	62.2%	13.5%	37人
		割合	4.4%	13.9%	7.8%	64.3%	9.6%	115人

参考資料：資料3 小学校－11、15・中学校－11、15

- ③－1：学校図書館入口周辺に時事ニュースのポスターの掲示、新聞や進路情報のコーナーを設けるなど工夫が見られます。
- ③－2：学校図書館ではコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用する必要な環境が整備されていないため、教職員 64.3%は「あてはまらない」等の否定的な回答をしています。



新聞を活用した取組  
(熊野第二小学校)



図書室前の掲示板に高校入試情報コーナー  
(熊野中学校)

【表4】個に応じた取組

④個に応じた取組		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	本をあまり読まない、もしくは不読の児童・生徒を把握し、個に応じた指導を行っている。	小学校	6.4%	38.5%	24.4%	7.7%	23.1%	78人
		中学校	0.0%	21.6%	35.1%	21.6%	21.6%	37人
		割合	4.3%	33.1%	27.8%	12.2%	22.6%	115人
2	不登校や一時的に学級になじめない児童・生徒の「心の居場所」として活用されている。	小学校	3.8%	14.1%	20.5%	32.1%	29.5%	78人
		中学校	0.0%	8.1%	24.3%	51.4%	16.2%	37人
		割合	2.6%	12.2%	21.7%	38.3%	25.2%	115人

参考資料：資料4 小学校－17、20・中学校－17、20

- ④－1：学校図書館を利用するのは、いつも同じ児童・生徒の傾向が見られます。教職員は不読の児童・生徒への読書の働きかけは十分ではない回答をしています。
- ④－2：不登校傾向や悩みを抱える児童・生徒の「心の居場所」となる活用は十分ではない回答をしています。



マットを敷き詰めた空間  
(熊野中学校)



個別の読書空間  
(熊野東中学校)

【表5】教職員・学校司書の状況

⑤教職員・学校司書の状況		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	学校図書館の利活用方法や約束事が決まっており、毎年、オリエンテーションを行う等、児童・生徒への指導を行っている。	小学校	24.4%	51.3%	7.7%	1.3%	15.4%	78人
		中学校	43.2%	27.0%	13.5%	8.1%	8.1%	37人
		割合	30.4%	43.5%	9.6%	3.5%	13.0%	115人
2	教職員・学校司書が連携して、児童・生徒の登校時から下校時までの学校図書館の開館に務めている。	小学校	10.8%	33.3%	21.8%	17.9%	16.7%	78人
		中学校	5.4%	40.5%	24.3%	24.3%	5.4%	37人
		割合	8.7%	35.7%	22.6%	20.0%	13.0%	115人

参考資料：資料5 小学校-24、25・中学校-24、25

- ⑤-1：児童・生徒への学校図書館の利活用方法や約束事は本来「あてはまる」が求められます。教職員の回答は小学校24.4%、中学校43.2%と低い現状です。
- ⑤-2：学校図書館の開館時間は短いため、「あてはまる」の肯定的な回答は8.7%と低いです。学校司書の勤務時間に柔軟性をもたせるなど、開館時間の検討が必要です。

【表6】外部との連携

⑥外部との連携		教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない 無回答	合計
1	保護者と連携・協力した読書活動推進の普及啓発活動を行っている(例 子ども読書の日、文字・活字文化の日等)。	小学校	16.7%	52.6%	12.8%	3.8%	14.1%	78人
		中学校	0.0%	10.8%	18.9%	43.2%	27.0%	37人
		割合	11.3%	39.1%	22.0%	10.5%	18.5%	115人
2	町立図書館や他の学校との連携を図っている(例 町立図書館又は学校間での圖書の貸出や町立図書館の司書による読み聞かせや朗読等)。	小学校	16.7%	42.3%	19.2%	3.8%	17.9%	78人
		中学校	0.0%	16.2%	24.3%	21.6%	37.8%	37人
		割合	11.3%	33.9%	20.9%	9.6%	24.3%	115人

参考資料：資料6 小学校-26、30・中学校-26、30

- ⑥-1：教職員の肯定的な回答において、小学校69.3%、中学校10.8%と大きな差が見られます。保護者と読書活動の連携や協力について見直しが必要です。
- ⑥-2：教職員の肯定的な回答において、小学校59.0%、中学校16.2%と大きな差が見られます。町立図書館や他の小中学校との読書活動の連携や協力について見直しが必要です。

【表7】「くまどく」の取組

⑦「くまどく」の取組	教職員	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	わからない・無回答	合計
1 「くまどく」ノートを十分に活用(提出状況、教員のコメント、保護者印)し、家庭での読書活動への支援を行っている。	小学校	28.2%	47.4%	11.5%	1.3%	11.5%	78人
	中学校	5.4%	29.7%	37.8%	13.5%	13.5%	37人
	割合	20.9%	41.7%	20.0%	5.2%	12.2%	115人
2 教職員・学校司書もしくは図書委員により定期的に読み聞かせや朗読、ブックトークを行っている。	小学校	25.0%	46.2%	12.8%	3.8%	11.5%	78人
	中学校	16.2%	48.6%	16.2%	8.1%	10.8%	37人
	割合	33.0%	38.3%	8.7%	6.7%	11.3%	115人

参考資料：【資料7】小学校-33、35・中学校-33、35

- ⑦-1：教職員の肯定的な回答において、小学校 75.6%、中学校 35.1%と大きな差が見られます。特に中学校は児童・生徒アンケートや保護者アンケートの結果をふまえ、「くまどく」の取組について効果的な活用や支援について見直しが必要です。
- ⑦-2：小中学校の教職員の回答に分散が見られます。一部の教職員の取組になっている状況も見られるため、読書活動の推進についてはベクトルをそろえていくことが必要です。

## 〔考察〕

【表3】から【表7】において、教職員の「わからない・無回答」の回答は約1割もしくは2割以上を占めており、学校図書館は司書教諭や学校司書など担当者に任せている傾向が見られます。

不登校傾向や悩みを抱える児童・生徒にとって、学校図書館は「心の居場所」となる取組においては、教職員の認識に差が見られ、共有されていない状況が見られます。個別最適な学びの視点から教職員の共有化が必要です。



図書委員による  
読書キャンペーンの準備  
(熊野第一小学校)



図書委員による文化祭の紙芝居  
(熊野中学校)



### 3 学校における取組

#### 取組

#### (1) 学校における読書活動全体計画及び年間指導計画の作成

各学校において、児童・生徒の望ましい読書習慣の形成を図り、日常生活において読書活動が活発に行われるよう、創意工夫を生かした取組が期待されます。また、各学校において児童・生徒の主体的な読書活動を推進していくためには、全教職員が連携して取り組まなければなりません。

そのために、すべての学校が読書活動の全体計画及び年間指導計画を作成するように取り組みます。

#### (2) 「朝読」活動の推進

熊野町では、「朝読」実施率が、小学校、中学校ともに100%でした。「朝読」は、児童・生徒の読書習慣の定着を図るために有効であり、引き続き実施していきます。



「朝読」活動  
(熊野中学校)

#### (3) 読書の好きな児童・生徒の育成

平成30年度の広島県「基礎・基本」定着状況調査の「本を読むのが好き」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は80.9%、生徒は71.7%いましたが、熊野町では児童は80.8%、生徒は69.4%と広島県を下回っていました。

今後は、「くまどく」事業を一層推進させるとともに、言語活動の充実により児童の学力向上を図っています。

#### (4) 調べ学習の取組の推進

児童・生徒の読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身に付けさせるためには日常の学習指導に学校図書館等を活用した調べ学習を積極的に取り入れることが有効です。

各教科等での学習において、課題に対して、主体的に解決していくために、学校図書館等を使った調べ学習を取り入れて、本を活用する体験をさせていきます。

#### (5) 作品の応募や発表の場の確保

読書した感想を発表したり、文章にしたりすることは、本の内容を深く理解し、自分の考えをまとめるとともに、表現力を高める上で効果的です。

各学校で、読書感想文や自分の読んだ本の紹介等を行うビブリオバトルなどの発表の機会を設けたり、読書の楽しさや本の楽しさを広めていくことが大切です。



## (6) 「子ども司書」養成講座

熊野町教育委員会は小学校と連携し、小学5年生の希望者を対象に読書活動を推進するリーダーを育成し、学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていくことで、児童の読書活動の充実を図っています。

## 「子ども司書」養成講座の目的

- ・熊野町内に読書活動を推進するリーダーを育成し、育成したリーダーが学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていくことで、児童の読書活動の充実を図る。
- ・「くまどく」事業を一層推進させるとともに、言語活動の充実により児童の学力向上を図る。

おもな研修は、本の読み聞かせやPOP作り、本の整理や貸出業務体験等の研修を行います。また、保育園に行って園児に絵本の読み聞かせ体験をしています。講座で学んだことを活かして各小学校の図書室で読書活動を行います。

すべての講座を修了した場合、2月に開催される広島県教育委員会主催の「子ども司書」認証式で認証されます。



全体研修



保育園で絵本の読み聞かせ体験



町立図書館で本の整理



ポップ作り

※「子ども司書」養成講座は例年6月に熊野町立図書館と熊野町役場で実施していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、10月から12月にかけて実施予定となっています。

### (7) 関係機関の連携

学校は町立図書館や各学校と連携し、資料を相互に貸し借りしたり、収集資料の分担化等を推進していきます。

町内の図書司書や司書教諭及び町立図書館、それに関わる教育委員会事務局による連絡会を継続実施し、子どもの読書活動に関する情報の提供や交流を行う機会を設けるよう努めます。また、読書指導に関する研修会等を実施して、司書教諭及び学校司書の指導力の向上を図ります。

### (8) 「子ども読書の日」等の取組

各学校において、「子ども読書の日」が定められた経緯やその目的等について紹介し、学校での取組や親子で読書を通じて関わり合う家庭読書の推進について呼びかけ等を実施しています。また、読書週間を設け、図書委員会が中心となった読書活動の啓発に取り組みます。



「子ども司書」のグループワーク



### 3 町立図書館における現状と取組

子どもにとって、図書館は、その豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。また、保護者にとっても、子どもに読ませたい本を選択したり、子どもの読書について司書等に相談したりすることができる場所です。

図書館は、子どもや保護者を対象としたおはなし会、講座、イベント等を実施するほか、子どもの読書活動を推進する団体の支援、多様なボランティア活動等の機会や場所の提供等を行い、各学校等と連携しながら、地域における子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を果たしていくよう努めます。

#### 現 状

令和元年度熊野町子どもの読書活動推進計画「児童・生徒・保護者アンケート」結果より

【表1】図書館の利用状況（児童・生徒）

①あなたは、「熊野町立図書館」に行きますか。		児童・生徒	よく行く	ときどき行く	あまり行かない	行かない	-	合計
1	あなたは、「熊野町立図書館」に行きますか。	小学校	18.9%	35.2%	28.3%	17.6%	-	1,212人
		中学校	3.7%	22.1%	38.6%	35.7%	-	594人
		全体	13.9%	30.9%	31.7%	23.5%	-	1,806人
2	1で「よく行く」「ときどき行く」と答えた人に質問します。1か月に、どれくらい行きますか。	児童・生徒	6日以上	4-5日	2-3日	1日	-	合計
		小学校	16.6%	19.9%	38.4%	25.1%	-	662人
		中学校	7.5%	15.1%	40.3%	37.1%	-	159人
		全体	14.9%	19.0%	38.7%	27.4%	-	821人
3	1で「あまり行かない」「行かない」と答えた人に質問します。なぜ、行かないのですか。	児童・生徒	家から遠い	他にすることがある	読みたい本がない	本が好きではない	その他	合計
		小学校	42.5%	25.5%	7.6%	7.1%	17.2%	603人
		中学校	44.4%	28.1%	7.6%	8.9%	10.9%	459人
		全体	43.3%	26.7%	7.6%	7.9%	14.5%	1,082人

(参考資料：資料10 小学校-16、17、18・中学校-16、17、18)

- ①-1：町立図書館に「よく行く」「ときどき行く」と回答した割合は、小学生は54.1%に対し、中学生は25.8%にとどまっており、中学生になると町立図書館の利用が減少する傾向が見られます。
- ①-2：町立図書館を1か月に利用する頻度は、小中学生ともに「2～3日」との回答が最も多く、小学生は38.4%、中学生は40.3%でした。1か月に「4日以上利用する」と回答した小学生は36.5%であるのに対し、中学生は22.6%となっており、利用回数においても、中学生になると減少する傾向が見られます。
- ①-3：町立図書館に「あまり行かない」「行かない」と答えた小学生、中学生の割合は、「家から遠い」「他にすることがある」など物理的・時間的要因によるものが多く、

また、「その他」と回答した理由については、小中学生とも「時間がない」が最も多く、小学生では「図書館の場所がわからない」「家族が連れて行ってくれない」中学生では「町立図書館に行こうと思わない」「町立図書館に行く必要がない」「町立図書館に行く目的がない」「本は自分で購入して読む」という回答も多く見られました。

【表2】図書館の利用状況（保護者）

②町立図書館の利用状況(保護者)		保護者	よく行く	ときどき行く	あまり行かない	行かない	-	合計
1	あなた(保護者・記入者)は、「熊野町立図書館」に行きますか。	幼稚園・保育園・認定こども園	16.5%	34.1%	19.7%	29.7%	-	437人
		小学校	16.1%	41.1%	23.1%	19.7%	-	1,074人
		中学校	8.8%	32.4%	28.0%	30.8%	-	510人
		全体	14.3%	37.4%	23.6%	24.7%	-	2,021人
2	1で「よく行く」「ときどき行く」と答えた人に質問します。誰と一緒に町立図書館に行きますか。(※複数回答可)	保護者	ひとり	お子さんと	家族と	友人と	その他	合計
		幼稚園・保育園・認定こども園	24.2%	65.2%	9.9%	0.0%	0.7%	302人
		小学校	22.6%	66.8%	10.2%	0.1%	0.4%	798人
		中学校	34.2%	52.4%	12.0%	1.1%	0.4%	275人
全体	25.2%	63.6%	10.5%	0.3%	0.4%	1,375人		
3	1で「あまり行かない」「行かない」と答えた人に質問します。なぜ、行かないのですか。(※複数回答可)	保護者	家から遠い	他にすることがある	読みたい本がない	本が好きではない	その他	合計
		幼稚園・保育園・認定こども園	21.4%	50.0%	3.0%	4.3%	21.4%	234人
		小学校	20.6%	47.0%	5.4%	13.5%	13.5%	534人
		中学校	19.6%	47.9%	7.7%	8.6%	16.1%	336人
全体	20.5%	47.9%	5.6%	10.1%	15.9%	1,104人		

(参考資料：資料13 小中学生の保護者-14、15、16・資料16 幼稚園・保育園・認定こども園の保護者-14、15、16)

- ②-1：51.7%の保護者が、町立図書館に「よく行く」「ときどき行く」と回答しており、保育園・幼稚園の園児の保護者は50.6%、小学生の保護者は57.2%、中学生の保護者は41.2%でした。
- ②-2：町立図書館に「よく行く」「ときどき行く」と回答した74.1%の保護者が、「子ども」「家族と」一緒に行くとは回答しており、保護者は家族と一緒に町立図書館を利用する傾向が見られます。
- ②-3：町立図書館に「あまり行かない」「行かない」理由は、「家から遠い」「他にすることがある」など物理的・時間的要因によるものが多いことがわかります。
- 「その他」と回答した理由については、「行きたいが時間が取れない」「図書館が開いている時間にいない」「図書館に行かなくてもスマホで読める」などインターネットの普及によるもの、「書店に行くことが多い」「本を汚したり、破いたりするかもしれないので行かないようにしている」といった回答も見られました。

## 〔考察〕

## (1) 町立図書館を活用してもらうための保護者への働きかけ

「読書の大切さ」を約9割の小中学生が認識（※1）し、「本を読むことが好き」と回答している小学生は約8割、中学生は約7割（※2）であるにもかかわらず、町立図書館を利用している小学生は約5割、中学生は約3割にとどまっており、町立図書館が十分に活用されていない傾向がみられます。

町立図書館は、子どもにとって必ずしも物理的に近い場所ではないため、図書館を利用するには、家族の協力が必要です。また、保護者が図書館を利用すれば、子どもも自然と図書館を利用するようになります。しかし、約5割の保護者が町立図書館に「あまり行かない」「行かない」と回答しており、子どもへの働きかけだけでなく、保護者への働きかけも必要です。

## (2) 読書の楽しみ・喜びを知る機会の提供

読書が好きでないと回答した小中学生で「文字を読むことの大変さ」と答えた人の割合が高い（※3）ことから、町立図書館においても読み聞かせの機会の提供やイベント、講座などを通して、無理なく、読書の楽しみを徐々に感じていけるように導いていくことが大切です。

また、子どもが楽しみながら、読書を好きになっていけるような環境づくりや読書支援を行うことが大切です。

そのためにも、家庭、地域、学校が連携し、子どもの読書活動を支援していくことが必要です。



「0・1・2・3歳児のおはなし会」の様子



夏休み講座「絵本のお菓子を作ろう」の様子

（※1）参考資料 



 小学校-9・中学校-9

（※2）参考資料 



 小学校-1・中学校-1

（※3）参考資料 



 小学校-3・中学校-3



## 取組

## (1) 読書に親しむ機会の充実に向けた取組

## ① プレママ・パパのクラスでの読み聞かせの案内

熊野町健康推進課と連携し、「母親学級」「両親学級」において、絵本の読み聞かせの案内や町立図書館の利用案内、おすすめ絵本の紹介冊子を配布します。

## ② おはなし会の開催

読み聞かせボランティアの協力のもと、町立図書館において、子どもの発達段階に応じたおはなし会を定期的に行います。

「0・1・2・3歳のおはなし会」では、手遊びや絵本の読み聞かせなどをおして、親子の触れ合いを深めながら、絵本を楽しむ機会を提供します。

「おはなし会」では、主に小学生以下の子どもを対象に、絵本の読み聞かせを行い、絵本を楽しむ機会を提供します。

## ③ ブックスタート「あかちゃん広場」での町立図書館の紹介

子育て支援課と連携し、毎月6カ月児の親子を対象に実施しているブックスタートで、町立図書館や親子で楽しめる絵本の紹介などを行います。

## ④ 親子読書の啓発事業

親子読書等の大切さを再認識してもらおうきっかけとなるよう、就学前までの親子を対象に、絵本の選び方や読み聞かせなどについて楽しく学ぶ機会を提供します。

## ⑤ 子どもを対象としたイベント・講座の開催

町立図書館を知ってもらい、本や図書館に親しむきっかけとなるよう、「子ども読書の日」や夏休み期間中など年間を通して、子どもを対象とした様々なイベントや講座を開催します。

また、「週末は家族で図書館に行こう！」をキャッチフレーズに、親子で楽しめるイベントや講座などを企画し、家族での図書館利用を促します。

## ⑥ 児童書等の企画展示の実施

子どもが多くの本と出会うきっかけとなるよう、毎月興味を持ちそうなテーマを決め、テーマに沿った児童書を展示し貸出します。

## (2) 本や図書館に関する情報発信

## ① 「こどもとしょかんだより」「としょかんだよりYA」の配付

子どもと本、図書館を結ぶツールとして、新刊案内や図書館の利用方法、行事などを掲載した「こどもとしょかんだより」(未就学児用・小学生用)を毎月、「としょかんだよりYA」(中学生用)を年4回発行し、幼稚園・保育園・認定こども園の乳幼児、小中学生に配付します。また、「くまの・こども夢プラザ」や公民館等にも配布



し、未就園児の保護者にも情報発信します。

②おはなし会のチラシの配付

子育て支援課と連携し、「乳幼児医療費受給者証」を発送時に、おはなし会のチラシを同封し、広報を行います。

(3) 学校との連携の推進

子どもの読書環境をより充実させるため、学校との連携・協力体制を強化します。

①団体貸出

学校から要望のあった図書館資料を100冊まで貸出します。

②小学校への「朝読セット」の貸出

小学校を対象に、「朝読セット」(低学年、中学年、高学年向け)を選定し、学期ごとに各校に貸出し、朝読書の支援を行います。

③学習支援リストの作成・提供

学習に有効な資料の情報を提供します。

④司書連絡会を開催

町立図書館と学校図書館の司書連絡会を開催し、情報交換などを行います。

⑤小学生の施設見学の受け入れ

施設見学をすることにより、小学生が図書館を利用するきっかけや、本への親しみを持つきっかけとなるよう積極的に受け入れます。

⑥中高校生の職場体験の受け入れ

図書館の仕事を体験することにより、図書館の業務や活動を理解してもらうきっかけとなるよう積極的に受け入れます。

⑦「子ども司書」の現地研修の受け入れ

学校や地域での読書の楽しさや大切さを広めていくリーダーを養成する「子ども司書」養成講座の現地研修を受け入れ、児童の読書活動の充実に協力します。

(4) 地域との連携

①ボランティアの活用

図書館におけるボランティア活動は、子どもの読書活動の推進に大きな役割を果たしています。図書館では、ボランティアを活用しながら、おはなし会などで、小学生や未就学の子どもの保護者を対象として、絵本の読み聞かせを行います。

②団体貸出の実施

幼稚園・保育園・認定こども園や地域を中心として主体的に読書活動を行う団体に、団体貸出を行います

## IV 熊野町子ども読書活動推進 のための環境の整備・充実

# 1 学校における整備・充実

## 人的整備の充実

### (1) 子どもの読書活動推進のための人材の育成

熊野町では、1か月に一冊も本を読まない児童生徒の数が減少しています。「くまどく」事業に加え、本の読み聞かせやブックトーク等様々な取組の成果であると考えられます。そこで、さらに読書活動を推進するための人材育成が重要となります。

#### ○読み聞かせ等ボランティアの受け入れ

子どもの読書活動を推進していくためには、学校だけでなく、家庭や地域、図書館等と連携して、読書環境を整えることが必要です。

そのため、各学校で児童生徒と保護者が一緒に行う「くまどく」を奨励したり、読み聞かせや資料整備等のボランティアを受け入れ、児童生徒の読書に関するアンケート調査の結果を伝えたり、学校が実施している読書活動の取組を伝えたりして、読書活動推進のための人材育成を図ります。

#### ○学校図書司書の役割充実

児童・生徒及び教員へのレファレンス(※1)対応を充実させていきます。

「読書タイム」等での読み聞かせ、ブックトークを定期的実施します。

書架の整理等とともに、本の紹介等をする図書だよりを発行して、工夫した学校図書室の運営をしていきます。

#### ○司書教諭講習への参加と役割充実

大学における司書教諭講習の受講を奨励し、資格取得者の養成に努めます。

司書教諭の専門的知識・技術の向上を図ることを目的として、各種研修会への参加を推進していきます。

(※1)レファレンス 資料・情報を求める利用者に対して提供される本や資料の紹介・提供などの援助。



地域の方による「朝読」の読み聞かせ  
(熊野第四小学校)

## 物的整備の充実

### (1) 学校図書館の蔵書数

熊野町内小中学校の学校図書館は計画的に図書の整備を行った結果、現有蔵書数は標準蔵書数を上回り、蔵書数は増加しています。

【表 1】 熊野町内小中学校の学校図書館蔵書数（平成31年3月31日現在）

学校名	児童 生徒数	学級数	現有 蔵書数	標準 蔵書数	差引数	達成率 (%)
熊野第一小学校	543	18	13,335	10,360	2,975	128.7
熊野第二小学校	95	6	7,175	5,080	2,095	141.2
熊野第三小学校	272	10	9,229	7,000	2,229	131.8
熊野第四小学校	374	13	10,283	8,360	1,923	123.0
熊野中学校	233	6	11,899	7,360	4,539	161.7
熊野東中学校	395	12	11,132	10,720	412	103.8

### (2) 学校図書館のリニューアル

学校図書館全体計画の目的や課題を見直し、リニューアル実施計画を取り入れるなど改善をはかり、館内の環境を整えていくことが必要です。

- 学校図書館を活用した授業・行事の計画
- 図書の適切な廃棄・更新
- 図書の分類、配架の工夫
- 必要な情報を調べやすい・探しやすい環境づくり
- 居心地のよい空間づくり
- 図書の展示方法の工夫
- 学校図書館内の清掃・改装
- 掲示物・パネル等の作成
- コーナーの設置（新着図書・季節物・教科書に出てくる図書等）

参考：広島県教育委員会「学校図書館リニューアルの手引」令和2年5月



【表2】本から学び自らの考えを深める

②学校図書室について			よく行く	ときどき行く	あまり行かない	行かない		合計
1	あなたは、授業以外学校の図書室に行きますか。	小学校	9.6%	32.2%	30.3%	27.9%		1,218
		中学校	14.3%	34.6%	29.3%	21.8%		587
		全体	11.1%	33.0%	30.0%	25.9%		1,805
			4日～5日	2日～3日	1日	その他		合計
2	「よく行く」「ときどき行く」と答えた人は、一週間にどれくらい、図書室に行きますか。	小学校	12.7%	37.6%	31.5%	18.2%		534
		中学校	21.5%	39.4%	28.7%	10.4%		317
		全体	18.0%	38.3%	30.4%	15.3%		851
			空いている時間が短いから	他にすることがあるから	読みたい本がないから	本が好きではないから	その他	合計
3	「あまり行かない」「行かない」と答えた人は、なぜ、行かないのですか。	小学校	19.8%	35.8%	15.5%	10.2%	18.8%	724
		中学校	21.6%	32.0%	23.9%	15.4%	7.2%	306
		全体	20.3%	34.7%	18.0%	11.7%	15.3%	1,030

参考資料：資料9 小学校－10、11、12・中学校－10、11、12

- ②－1：図書室の利用について、小学生は58.2%、中学生は51.1%が「あまり行かない」「行かない」と回答しています。
- ②－2：小学生は50.3%、中学生は60.9%が週に2日～5日利用していると回答しています。
- ②－3：「空いている時間が短い」と回答した児童・生徒が約2割を占め、学校の工夫が必要です。



学校図書館でのおすすめの本  
(熊野第四小学校)

【表3】目的に応じて利用する

③目的に応じて利用する			本を読むため	調べものをするため	休憩やリラック クスするため	利用したこと がない	その他	合計
1	あなたは、学校の図書室を、どんなときに利用 しますか。(※あてはまるものは、全て選んでくだ さい。)	小学校	49.2%	24.2%	16.6%	4.0%	5.9%	1,649
		中学校	40.1%	11.9%	31.9%	11.0%	5.0%	715
		全体	46.5%	20.5%	21.2%	6.1%	5.7%	2,364

参考資料：資料9 小学校-13・中学校-13

- ③-1：図書室の利用目的について、小学生の回答は「読書」に次いで「調べもの」が高く、本を読んだり、調べ学習で図書室を活用しています。中学生の回答は「読書」に次いで「休憩やリラックス」が高く、図書室が憩いの場としての役割が大きいです。

【表4】物的環境の充実

④物的環境の充実			ある	どちらかとい うとある	どちらかとい うとない	ない	合計
1	学校の図書室には、読みたくなるような本はあり ますか。	小学校	52.1%	29.8%	11.4%	6.6%	1,193
		中学校	26.5%	32.9%	25.3%	15.2%	584
		全体	43.7%	30.8%	16.0%	9.5%	1,777

参考資料：資料9 小学校-14・中学校-14

- ④-1：読みたくなるような本が図書室にあるかについて、「ある」「どちらかというところ」と回答した割合は、小学生は81.9%、中学生は59.4%と満足しています。

## 〔考察〕

学校図書館の蔵書整備が進んではいますが、学校図書館の利用率は決して高くはありません。読書によって人生が豊かになるという実感を持たせ、自ら進んで読書するような環境づくりを進める必要があります。学校図書館の役割は非常に重要です。「調べ学習」で活用できる本の種類をよりいっそう整備したり、児童・生徒に時間さえあれば学校図書館に行きたいと思わせるようなさまざまな展示や仕掛けなど、興味を引くようなアイデアと共に本を提供し、調べ学習をするための糸口を与えることも役割です。



「ともだち」に関するおすすめ本  
(熊野第二小学校)

## 2 町立図書館における整備・充実

町立図書館は、多様な利用者及び住民の要望や地域の実情に十分留意して児童・青少年用図書及び乳幼児向けの図書を含む図書館資料を整備し、充実した図書館サービスの提供に努めるとともに、職員の資質の向上や、ボランティアが多様な活動を行うための機会の提供などに努めます。

地域における子どもの読書活動を推進するために、子どもが読書活動をより身近に感じられる環境を整備していくことを目指します。

### 人的整備の充実

#### (1) ボランティアの活用

子どもの読書推進活動を行っていく上で、図書館、公民館、地域、学校、保育園、幼稚園など様々な場所で活動するボランティアは、大きな役割を果たしています。

図書館ではボランティア登録制度を導入し、おはなし会での読み聞かせなど多様なボランティア活動を行うための機会を提供しています。

また、読み聞かせなどについての講座を不定期に開催し、ボランティア養成に努めます。



「図書館まつり」でのボランティアによるペープサート上演の様子

#### (2) 図書館職員のスキルアップに向けた研修への参加

司書は、図書館における専門的職員として、児童・青少年用図書等を含む図書館資料に関する広範な知識や、子どもの発達段階に応じた図書の選択に関する知識、子どもや保護者に対して図書に関する案内や助言を行うとともに、子どもの読書活動に関する相談等に応じるよう努める必要があります。

これらの役割を果たすため、外部研修等にも積極的に参加し、児童・青少年用図書に関する知識や読み聞かせ等の技能を身に付けるなど、職員の資質の向上に努めます。



## 物的整備の充実

## (1) 子どもにとって利用しやすい図書館の環境整備

児童コーナーでは、子どもが楽しく快適に過ごせるよう、本の配置や案内表示、ディスプレイなどを工夫しています。また、乳幼児と一緒に来館する保護者が利用しやすい環境づくりを行っています。

児童コーナーの一角に「おはなしのへや」を設置し、親子で読み聞かせを行ったり、子どもだけでゆったりと本を読んだり、おはなし会を開催できるスペースを提供しています。

乳幼児用のトイレや授乳室、おむつ台の部屋を児童コーナー内に設置し、児童コーナーの書架は低く設置しています。また、館内はバリアフリーでベビーカーのまま移動することができ、安心して図書館で過ごせる環境を整備しています。



児童コーナー



おはなしのへや

## (2) 「ティーンズコーナー」の設置

子どもから大人に向かう時期に様々な分野への興味や関心を広げられるよう「ティーンズコーナー」を設置し、中高校生を対象とした蔵書の充実を目指します。

中高校生へのおすすめ本を定期的に紹介したり、職場体験で中高校生が選んだ本の展示などを行います。



ティーンズコーナー

## (3) 情報化の推進

本では得られない最新の情報を得る手段として、インターネットにつながったパソコンを館内に設置しています。

子どもが主体的に読みたい本を選択するために有効な手段であるオンライン閲覧目録(OPAC)を導入しています。



蔵書検索やインターネット予約を実際に体験することなどを通して図書館の活用法を知り、利用を推進します。



インターネットコーナー



蔵書検索機

(4) 障害のある子どものための整備等の充実

障害のある子ども、特別な配慮を必要とする子どもも安心して、快適に利用できるよう対面朗読、大活字本、点字資料、車椅子、歩行補助器及び拡大読書器等の対応をします。

障害者用トイレや車いす用閲覧席を設置しています。



車いす用閲覧席

(5) 遠方の利用者への配送サービスの充実

図書館が家から遠く、来館できない人のためのサービスとして、予約本の公民館配送を実施するとともに、利用方法などを広く周知します。

(6) 「くまどく」コーナーの設置

「くまどく」コーナーを設置し、家庭読書に適する本を置いています。熊野町家庭読書「くまどく」事業に図書館としての役割を果たすため、今後も「くまどく」コーナーの充実を目指します。



「くまどく」コーナー

(7) 蔵書の充実

乳幼児、児童・生徒など、それぞれの発達段階に応じ、様々な興味やニーズに応えられるよう、各分野の資料を広く収集します。

読書意欲の高揚や、自分で調べ考える力の育成に幅広く対応していくため、計画的に図書を整備を行い、蔵書数を充実させていきます。

子どもが読みたい本と子どもに読んでもらいたい本のバランスなどを考慮しながら、幅広く選書を行い、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる支援をします。

【表1】町立図書館の蔵書数の推移

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
蔵書数(冊)	101,789	106,133	109,646	112,017	114,587	116,286
児童書(冊)(再掲)	29,909	31,232	32,687	33,798	35,131	35,754
児童書の割合	29%	29%	30%	30%	31%	31%

【表2】児童・生徒のニーズに応えた蔵書の状況

③児童・生徒のニーズに応えた選書・蔵書			ある	どちらかというところ	どちらかというところない	ない	合計
1	熊野町立図書館には、読みたい本がありますか。	小学校	52.3%	26.4%	10.8%	10.6%	1,165人
		中学校	23.4%	31.5%	24.8%	20.3%	585人
		全体	42.6%	28.1%	15.5%	13.8%	1,750人

(参考資料：資料10 小学生-19・中学生-19)

②-1：町立図書館の蔵書で読みたい本が「ある」「どちらかというところ」と回答した割合は、小学生は78.7%に対し、中学生は54.9%にとどまっています。中学生の約半数が読みたい本が「どちらかというところない」「ない」と回答しています。

【表3】保護者のニーズに応えた蔵書の状況

③保護者のニーズに応えた蔵書の状況		保護者	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない	わからない	合計
1	町立図書館には、あなたのお子さんが読みたいと思うような本はあると思いますか。	幼稚園・保育園・認定こども園	64.2%	20.0%	0.7%	0.0%	15.1%	436人
		小学校	52.5%	29.1%	4.8%	1.1%	12.5%	1,076人
		中学校	33.7%	29.1%	9.1%	3.0%	25.2%	508人
		全体	50.3%	27.1%	5.0%	1.3%	16.3%	2,020人
2	町立図書館には、あなたのお子さんに読ませたいと思うような本はありますか。	保護者	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない	わからない	合計
		幼稚園・保育園・認定こども園	61.0%	16.6%	0.2%	0.2%	21.9%	433人
		小学校	53.3%	24.9%	1.8%	0.8%	19.2%	1,075人
		中学校	39.0%	23.7%	3.5%	1.4%	32.4%	510人
全体	51.4%	22.8%	1.9%	0.8%	23.1%	2,018人		

(参考資料：資料13 小中学生の保護者-18、19・資料16 幼稚園・保育園・認定こども園の保護者-18、19)

③-1、2：子どもが読みたいと思う本が「ある」「どちらかといえばある」と回答した保護者の割合は77.4%、子どもに読ませたいと思う本が「ある」「どちらかといえばある」と回答した保護者の割合は74.1%でした。町立図書館には「子どもが読みたい」と思う本と、「子どもに読ませたい」と思う本のバランスがとれているとの見解のようです。

しかし、中学生の45.1%が読みたいと思う本が「どちらかというもない」「ない」と回答しているのに対し、保護者は12.1%、「わからない」を含めても37.3%であり、生徒と保護者の意識に相違が見られます。

#### [考察]

読書が好きでない小中学生は、「文字を読むことの大変さ」を理由にあげていた人の割合が高い(※1)ことから、子どもたちが楽しみながら、読書の喜びを知ることができるように、町立図書館においても、注意深い選書や環境づくり、読書支援を行うことが必要です。

中学生になると、読書離れや町立図書館の利用の減少の傾向が見られます。1か月に1冊も読まない中学生は、「本が好きではない」「読みたい本がない」という理由の割合が高いです(※1)。また、約半数の中学生が、町立図書館には、読みたくなるような本が「どちらかというもない」「ない」と回答しています。

子どもたちに豊かな読書経験の機会を提供し、読書の楽しみや喜び、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを得る機会を提供するためにも、子どもたちの興味・関心を把握し、本や図書館に求めている潜在的、顕在的ニーズに応えた蔵書の充実を目指すことが必要です。

(※1) 参考資料：**資料8** 小学生-3・中学生-3



熊野町立図書館 (外観)



熊野町立図書館 (館内)